

新型コロナウイルス感染症による影響について、公益財団法人共用品推進機構を通じて、リウマチ患者の方々へのアンケート調査にご協力を頂いた調査結果概要は、以下の通りである。

新型コロナウイルス感染症まん延の影響に関する調査結果概要

公益財団法人共用品推進機構

1. 目的

新型コロナウイルス感染症が生活や移動について及ぼした影響について、難病障害があり高齢者も多いリウマチ患者の方々を対象にアンケート調査を実施した。「新型コロナウイルス感染症まん延～現在（以下、まん延～現在）」と「新型コロナウイルス感染症まん延以前（以下、まん延以前という）」とでどのように日常生活が変化しかたを調査し、記録・整理を行った。

2. 調査対象・調査方法

- 対象者：公益社団法人日本リウマチ友の会会員（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）
- 調査方法：紙面による記入式アンケート調査。郵送で配布・回収した。
- 調査期間：2020年9～10月
- 回答者数：37名

3. 属性、身体状況

（1）属性

- 性別：男性2名、女性35名
- 年齢：50代8名、60代10名、70代17名、80代2名

（2）身体状況

介助者の必要性

移動時に介助者は不要：34名 このうち31名は階段を使用した上り下りも可能。しかし、この31名のうち25名が、手をつかむ、指をつまむ、ドアノブを回す、かがむなどの関節を使った動作は難しいと回答。

外出時に使用する機器

外出するとき杖を使用する人が5名、その他手押し車、補装具としての靴を使用するという回答が数名あった。

4. 調査結果

（1）日常生活について

①通勤・通学、在宅勤務・自宅学習

通勤・通学をしている人は少数であった。「人ごみがつらい」という回答がある一方で、テレワークが進み、電車の混雑が楽になったと答えた人もいた。また、まん延後に退職した人もおり、まん延が生活に大きな影響を与えていることが分かった。

在宅勤務・自宅学習については、まん延以前、現在とも行っていない人が半数を占め、まん延前後で大きな変化は見られなかった。

②買い物

まん延以前と比較すると、約7割が回数に「変化なし」と回答している。重い荷物、売り場の混雑に関する困りごとが多く、生協などの宅配、ネットスーパー、配達の利用、空いている時間に買い物をする、買い物に時間をかけないなど短時間で済ませる工夫をして

いることが分かった。消毒やマイバッグを持参することの手間についても回答があった。

③通院

まん延以前と比較して回数に大きな変化は見られなかった。電車、バスでの移動、病院での感染を心配する人が多く、通院の先延ばし、通院をやめたといった健康状態が悪化する状況にある人もいることが分かった。「工夫」については、通院に合わせた通勤の曜日変更、近所のクリニックへの転院が挙げたが、オンライン診療や処方箋を送ってもらうといった診療方法を活用していることがわかった。

④会合等

減少またはゼロになったと回答した人が約半数を占めた。メールやFAX、Zoomなどのリモート会議を活用している人がいたが、リモートでの会合に不安を感じている人もいた。

⑤娯楽

減少またはゼロになったと回答した人が半数以上を占め、娯楽がなくなりストレスを感じていることがうかがえたが、家の中でできる園芸、料理、体操を楽しんでいる人もいた。

⑥行政手続き等

コロナ下においては、電話、郵便、FAX を使用した人や、期日内にできないが認められたという回答があった。

(2) 日常生活に伴う移動時の状況について

「声かけの状況」については、声をかけられたことはないという人が半数以上おり、増減を感じている人は少数だった。「介助方法の変化」については、2割弱の人が変わらないと回答した。「見守りの状況」についても、3割以上の人が「変わらない」と回答した。

(3) まん延～現在で、活用するようになった情報収集方法

情報収集方法をまん延前と比較すると、県、市のホームページ、東京都新型コロナ対策パーソナルサポートなど、公的機関からの情報を得るようになった人がおり、信頼感からか、京都大学 iPS 細胞研究所所長の山中伸弥氏のウェブサイト挙げられていた。

(4) 公共交通機関、店舗などでの接遇介助方法等に関する提案や気づいたこと

駅、バスに関しては、対面応対を避けるためのタブレットを利用した駅の案内や、バスの乗降客がいないときの換気のためのドア開閉の要望があった。また、エレベーターのボタンを押す道具を友人が作ってくれた、転倒した際に人に助けられ、人の助けがなければ生きていけないと痛感したといった経験や、海外は日本よりも新型コロナウイルス感染症の拡大の規模が大きく、感染者のデータが多いためか、海外のリウマチ患者で新型コロナウイルス感染症に感染した情報を知りたいという回答があった。

5. まとめ

今回は、リウマチという疾患を持つ人を対象に、新型コロナウイルス感染症のまん延以前とまん延～現在の日常生活の移動等に関する変化を調査した。調査結果から、通勤・通学、買い物、通院等については、「回数」には大きな変化はなかったものの、自由回答から、その「内容」は様変わりしたことがわかる。手指の消毒は欠かさず、通販・配達も活用しながら混雑しない時間帯に滞在時間を減らして買い物をし、インターネットで会合を行うといった工夫と努力を続けている。リウマチという基礎疾患を持つ人たちが感じるストレスは、一般の人以上であろう。

ウイルスの蔓延が終息するまで、全ての人が「新しい生活様式」を続けなければならないが、その中で、前向きに楽しみを見出し、自粛生活をしている人もおり、このような生活こそがウイルスをより遠ざける暮らしではないかと考える。本調査が、コロナ下の日常生活に役に立つことを期待する。